諦崇寺報

諦崇寺 発行
藤井崇文 編集
〒631-0065
奈良市鳥見町
2丁目28－10
0742(37)2569
taisouji.jp

十六条戒

仏さまの正しい教え、「みんなで菩薩さまと成り、仏さまと成ってゆこう」という教え、その為には守るべき仏さまとのお約束、お誓いと致しまして、戒が十六あり、これを十六条の戒と申します。

十六条の戒をお受けになった、菩薩さまとしてのお名前が「戒名」で、ご戒名は亡くなられたからお授けする訳ではなく、生前・死後に関わらず、菩薩さまと成られた頭れとしてのお名前であります。

さて、十六あります戒ですが、「戒」を一言で言えば、親が子どもに「ちゃんとしなさい。」というのと同じです。これが仏教に於いては「ちゃんと仏さまの様にしなさい。」という事になります。

お釈迦さまがお説きになった教え、お経は膨大な量が伝えられています。これはお釈迦さまの教えになるのが下手だったからではありません。

仏さまが「仏さまになりなさい。仏さまの様に過ごしなさい。」とお教えになられても、私たち子どもというのは、親が「こうしなさい。」と言っても、「コレはダメなの?」、「じゃあ、アレなら良い?」と際限なく、屁理屈、言い訳、言いがかり、難癖をつけて親を困らせます。そうした私たち子どもの言い分に丁寧にお応えになられた結果が、沢山のお経であります。

私たちが生まれたときは皆、それぞれのお父さん、お母さんから「とにかく元気に育って欲しい。そして、困った人がいたら助けてあげる様な優しい人になって欲しい。」と祈る様に願いながら産んで頂いて、育てて頂きました。

親の「ちゃんとして欲しい。」というのは最終的にはこの「とにかく元気で、そして優しい人になって欲しい。」という事に尽きます。

この「とにかく元気で、そして優しい人」というのが、仏さまの教えで申しますところの菩薩さまとなります。

ただ、私たちの誰もが、いつも「聞き分けの良い子」ではありません。親の言うことに素直に頷く時もあれば、意地を張って言う事を聞かなかったり、色々です。

それでも親はしっかりその根本として、子どもに「ちゃんとして欲しい。元気に優しく育って欲しい。仏さま、菩薩さまの様な人になって欲しい。」という親の想い、親心を携えて子どもに語りかける訳でございます。

つまり、十六条の戒、十六あります戒は、数の多い少ないではなくて、その根底に「みんなで仏さまと成ってゆく。みんなで仏さまと成ってゆきましょう。」というお釈迦さまの願いが込められているのです。

その上で、これからご説明致します、十六条の戒、十六あります戒、それぞれについて皆さまご自身、お考え頂きたいと思います。

＊ 三帰依戒 ＊

『仏』…仏教と言うのはお釈迦さまがいらっしゃっただけでは、今日ある訳ではなくて、仏教をお伝え下さった沢山の祖師さま、そして皆さまのご先祖さま、この沢山の仏さまがいらっしゃって、ようやく今ここに仏教が存在している訳でございます。

『法』…沢山の仏さまの想いが時間も場所も超えて、手間を掛けてお伝え下さった「みんなで仏さまと成ってゆこう」という正しい教えであります。

『僧』…「みんなで仏さまと成ってゆこう」という正しい教えを学びながら、学ぶだけではなくて、これを護り伝えていく仲間が大切であります。

＊ 三聚浄戒 ＊

『摂律儀戒』…悪い事をしてはいけません。

『摂善法戒』…善い事をして下さい。

『摂衆生戒』…一切の生きとし生けるものの為に勤めて下さい。

＊ 十重禁戒 ＊

『第一　不殺生戒』…すべての生命を大切にして、仏さまの種を大きく育てて下さい。そうすればすべての生命は、仏さまの生命として続いてゆきます。自分の身体も心も、他の方の身体も心も、すべての生命の身体も心も大切に、大切にして下さい。

『第二　不偸盗戒』…仏さまの教えに身を委ねれば、どんな門であっても、それがたとえ悟りの門であっても、必ず開いて、心が安らかになり、皆さまが仏さまと成ってゆきます。ですから、何かを盗む必要はありません。

『第三　不貪婬戒』…身と口と心が清ければ、あれもこれもと望むことはありません。どうぞ皆さま、仏さまやご先祖さまと同じ道、同じ日々をお過ごし下さい。

『第四　不妄語戒』…仏さまの教えには欠けるところが無くて、私たちを仏さまの世界へとお導きくださいます。だから私たちは生半可な心で、その場しのぎの言葉を喋ってはいけません。

『第五　不酤酒戒』…むやみにお酒を呑むのでは無く、また、むやみにお酒を勧めてはいけません。お酒は判断を狂わせます。

『第六　不説過戒』…私たちは皆、仏さまご先祖さまと同じ道を歩んでいるのですから、誰かの過ちを責める必要はありません。自分の了見を中心として、仏さまの教えを語ってはいけません。

『第七　不自讃毀他戒』…自分を褒め、他人をけなす事は、どちらも自分を基準としています。自分ではなく、仏さまを基準とすれば、自惚れる事もありませんし、他人をそしる事もありません。

『第八　不慳法財戒』…すべては仏さまご先祖さまから受け継いだものであり、私たちは少しの間、お預かりしているだけです。持ち続けられないものを持ち続けようとしてはいけません。

『第九　不瞋恚戒』…怒りとは自分の思い通りにならない恐怖から生じます。自分の眼ではなく、仏さまの眼で見れば、怒る事はありません。

『第十　不謗三宝戒』…とにかく、仏さまの願い、教え、ご先祖さまの思いを大切にしなさい。今、何故、私がここに有るのかをよく考えて、仏さまご先祖さまの親心を大切にしなさい。

以上が十六条の戒、「菩薩戒」でございます。

お釈迦さまの教えというのは、真理に対する深いお考え、考察であり、その根底には「我が子に対する父母の愛」、これを血縁に依らないものへと発展、昇華させた「人類や世界に対する祈り」です。

私たちも仏さまの様に、数千年の時を経ても色褪せない「愛」や「親心」を学び、伝えていかねばなりません。これは、人任せでは、成し得ない事です。私たちの一人ひとりが、仏さまの教えを学ぶ者の責任として、次の人に伝えていかなければなりません。

仏さまの教え、父母の教えが、たとえ今の自分の考えに合わないからと言って、この脈々と受け継がれた親心の連鎖をないがしろにするのは、とても勿体ない事です。私たちは中々「聞き分けの良い、素直な良い子」にはなれません。けれども、子どもというのは、親に反抗しながらも時を経ていくうちに、親心に思いを寄せて、段々と、少しずつ、自分自身の親心、仏心を育てていくものであります。

平成二十六年五月
お授戒会「説戒」より